

# 萩ジオパーク推協だより

2017年6月29日 No. 27

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510  
TEL : 0838-21-7765 FAX : 0838-25-7767  
e-mail : hg-geo@city.hagi.lg.jp  
HP : <http://www.city.hagi.lg.jp/site/hg-geo/>

発行：萩ジオパーク構想推進協議会  
事務局：萩市ジオパーク推進課  
Facebook: <https://www.facebook.com/HagiGeoProject>

## ジオパーク活動の一つの形を体験してみませんか 龍が通った道まつり～阿武火山群ジオスタンプラリー～

萩市弥富・小川地区の成り立ちに重要な役割を果たした阿武火山群の一つ、伊良尾火山の活動の見どころを巡るスタンプラリーに参加してみませんか。

昨年に引き続き、龍が通った道まつりが、7月30日(日)10:00～15:00、弥富交流促進センター(須佐地域弥富地区)を主会場に開催されます。弥富龍神太鼓の演奏(11:45～)や飲食コーナーのある弥富交流促進センターのほか、龍鱗郷、猿屋の滝、壘ヶ淵、道永の滝、イラオ火山灰層観察施設の6地点で配布される台紙にスタンプを押し、全部集めた方には景品を用意しています。各ポイントでは地域特産品の販売と見どころ解説があります。

この企画は、この地域が真に大地と共に生きていることを伝え、楽しんでいただけるか、皆で企画を練ったものです。学習会も6月5日

(月)に引き続き、7月3日(月)には現地で行います。住民自らが地域の成り立ちを学び、保全保護とともに、地域振興に活用するというジオパークの取組みそのものと言えるこのまつりに、ぜひご参加ください。



【伊良尾火山の活動を「文化」に昇華させた龍神太鼓】

## 「突撃!レポート」 江向で歴史×地形のおたから探し

江向地区のおたからを探すべく、6月16日(金)に、江向地区に関係のある市民団体やジオパーク推進協議会事務局の皆さんと一緒に、江向地区を歩いてきました。

まず、スタート前に、萩博物館歴史専門員で、ジオパーク支援員でもある樋口尚樹さんからレクチャーを受けました。萩城下町の中で江向地区はどんな場所だったのか、どんな地形の上に作られたのか、どのように低湿地の開発が進んでいったのかなどの説明を聞きました。

実際に歩いてみると、明倫館の排水の工夫や、自然地形を利用して作られた新堀川や藍場川、水の流れを利用した藍玉座や水車小屋の跡など、三角州の低湿地に開発された土地ならではの水と共生する工夫や城下町づくりの痕跡が見えてきました。

萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業では、今回のおたから探しを基に、江向地区のおたからのデータベース化やおたからマップの作成を行い、市民や来訪者の皆さんにお伝えできるようにまとめていきます。



【城下町ならではの真っ直ぐな道の向こうには山のとっぺんが！城下町の町筋は、山を基準にした線を軸にして作られたそうです。】

(リポーター：NPO 萩まちじゅう博物館推進員 山本明日美)

## 大地となかよくするために、私たちにできることは・・・

—萩市立明倫小学校 第5学年「総合」の取組—

今年度、明倫小学校5年生122名が、「ジオパーク」を総合的な学習で取り組んでいます。

5月29日（月）午後、萩・明倫学舎内のジオパークビジターセンターを訪れ、白井孝明専門員から「ジオパークとは?」、萩が「大地となかよく生きるまち」になるために、自分たちができることを考え、実行することがジオパーク活動であることを学びました。自分たちの住む大地について、どんな場所なのか、先人がどのように付き合ってきたのか、を学舎内の藩校明倫館展示室の古地図や陶芸の村公園展望台から俯瞰することで確認しました。

そして、既にジオパークとして活動している所では、何をしているのかを、6月8日（木）、Mine秋吉台ジオパークのある秋吉台において、美祢市の職員の方からお話をいただき、現地での見学を行いました。遠足で見た景色とは異なり、長い年月が創り出した景観を見て、「物事には必ず理由がある、ということがわかりました」。お礼の言葉の中で述べた児童の感想です。

現在、児童の皆さんは「ジオパーク新聞」の発行や実際の取組に向けた企画の立案中です。子ども目線でのジオパーク活動に期待！です。

（事務局員 伊藤靖子）



〔カルストの草原に学んだ明倫小の児童たち〕

## 隠岐ユネスコ世界ジオパークフェスタに参加して

6月4日（日）島根県松江市くにびきメッセにおいて、第4回隠岐ユネスコ世界ジオパークフェスタが開催され、昨年に引き続き、日本ジオパークネットワーク中四国近畿ブロックの一員として、ジオパークの魅力を伝えるコーナーに参加しました。閉会時の主催者挨拶では、これまでは隠岐の物産を目的に来られた方が多かったのが、次第にジオパークにも目を向けていただいている、との発言がありました。隠岐諸島は多数の無人島と4つの有人島からなります。有人島ごとに別々の自治体であり、今回のフェスタでの共同キャンペーン活動などは、ジオパークに取り組むことによって可能となった事業とのことでした。大地と人をつなぐジオパーク活動は、人と人もつなぐのだと実感しました。

（事務局員 伊藤靖子）



〔会場の様子〕



〔パンフレットを拡げて説明〕

## ジオパーク お散歩ツアーを開催 6/13 (火) 明木地区

ジオパークお散歩ツアーを開催しています。これは、地域の皆さんが住み慣れた所を少し散策し、その後で「身近にあるものがどのようにジオパークにつながるのか」を知っていただくものです。各公民館と協力して開催していますが、去る6月13日(火)には、明木の角力場(すもうば)公民館で、初めてのツアーを開催しました。

まず、約800年前に、現地で行き倒れになった騎馬武者を祭ったという隠れ地蔵や宇麻(うま)神社を、皆さんと一緒に散策しました。隠れ地蔵を囲っている一部の石が、笠山から運んできたものであることや宇麻神社は今の場所に移設される前には、神社の境内に相撲場があったことから「角力場」という地名が付いたことなど、興味あるお話を参加された方から伺いました。

散策の後、角力場公民館において講師の白井専門員から、立体的に見える地図等を使って、歩いた地区や萩全体の大地の特徴の説明を聞きながら、参加者一同楽しく理解を深める機会となりました。

参加者からは「角力場地区のことが再確認できてよかった」、「知らなかったことや、そうだったのかと思うことがたくさんあった」、「地区内の他の場所でもやってほしい」、「昔話ができて(聞けて)良かった」、「他の地域のことも聞いたり、逆に他の地域の方を招いてお話をしてみたい」などの意見が出ました。

明木地区での開催の後、むつみ、川上地域、弥富、佐々並地区で開催しており、今後、その他の地区でも開催していく予定です。



【宇麻神社の鳥居と広がる社叢】



【立体地図を使っでの説明】

(事務局員 景由孝雄)

### ジオ・カメラ散歩



“川は生きている”

むつみ鈴倉橋の上から

蔵目喜川を望むと・・・

小さい滝がいくつも・・・

【蛇淵】

むつみ地域周遊の一コマに



## 萩ケーブルネットワーク新番組 「萩ジオさんぽ」始まる・・・

萩ケーブルネットワークの新番組「萩ジオさんぽ～下を向いて歩こう～」が始まりました。白井専門員が案内役となり、萩高校の生徒さんたちと一緒に町を散策しながら、萩の人々が大地と共に生きてきた歴史や知恵をたどります。

6月14日(水)に第1回放送分の撮影が行われました。テーマは「萩城下町は水びたしの町?!」。かつての明倫館や市役所周辺が水びたしの湿地だった頃の痕跡や、それを活かした暮らしをめぐりました。最後には田床山からの景色を見ながら、萩の町がどうして水びたしなのか、大地の成り立ちを考えました。

撮影に参加した高校生からは「ジオパークの番組と聞いて、岩や地層を見に行くと思っていたけれど、町中から始まって驚いた。最後には全てがつながって面白かった。」という感想が聞かれました。これからも大地と共に生きる萩のまちの姿を楽しく紹介していきますので、どうぞご期待ください。



【夕日を背に収録を振り返る高校生たち】

### ジオパーク・ワンポイント講座② 「ジオパーク」の本当の意味?!

私たちが目指す「日本ジオパーク認定」とは何でしょうか。ジオパークは世界遺産や文化財とは違い、物の価値を認めるものではありません。審査では「大地と共に生きるまち」をつくるための住民活動が本気で行われているかが問われ

ます。ジオパークの認定は、正確には「日本ジオパークネットワークへの加盟認定」を意味します。現在、日本ジオパークとして活動する地域は43ありますが、その仲間入りを認めてもらうということです。日本ジオパーク認定とは「大地と共に生きる国づくりへの参画」なのです。認定をもらうという受け身の姿勢では決してなれません。日本社会の発展に貢献するんだという気概をもって取り組みましょう。

(ジオパーク専門員：白井孝明)

## 7月の予定

- 萩ジオパーク構想推進協議会臨時総会 7月6日(木) 11:00~12:00  
会場：萩・明倫学舎映像展示室 内容：規約改正ほか 問合せ：萩ジオパーク構想推進協議会(電話：0838-21-7765)
- Mine 秋吉台ジオパークマスター講座「ジオパークを利用した地域の描き方」 7月14日(金) ①14:00~16:00 会場：秋吉公民館、②19:00~21:00 会場：カルスター 内容：Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会が開催する全15回の講座の初回です。白井専門員が講師の一人として、参加者と共に「ジオパーク活動とは?」について考えます。申込み：Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会事務局(電話：0837-63-0055) ※各回先着4名まで萩市役所から送迎しますので、萩ジオパーク構想推進協議会(電話：0838-21-7765)に連絡を。
- 萩まちじゅう博物館 地域おたからワークショップ「まち博ツアーをはじめよう 3」 7月18日(火)  
①午前の部 10:00~13:00 ②午後の部 13:30~16:00 場所：旭地域佐々並地区 内容：「長崎さるく」から講師を招き、まち歩きコースの作り方・磨き方・売り方や、萩でのツアーの商品化に向けたアドバイスをもらうワークショップ ①佐々並まち歩きツアー体験、②座学 参加費：②のみは無料、主催：萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会、申込み：文化遺産活用実行委員会事務局(NPO 萩まちじゅう博物館 電話：0838-25-3177)へ7月7日(金)までに電話 ※ツアーをつくる時の参考に! ②午後の部はまだ参加可能です。萩市役所前から現地までの送迎は要申込み。
- 萩ジオカフェ 7月20日(木) 14:00~15:30 会場：萩・明倫学舎復元教室、18:30~20:00 会場：萩市中央公民館講義室(萩市民館)、参加費：100円、申込み：萩ジオパーク構想推進協議会(電話：0838-21-7765) ※ジオパークってよくわからない人、ジオパークで何かやりたいことがある人、大集合!
- 第3回山のロダムバス釣り大会 7月29日(土) 8:00~13:30 場所：山のロダム(福栄地域紫福地区) 内容：環境保全と地域振興を考えて「ブラックバス」釣りを楽しめます。(参加受付終了、見学のみ) 主催：福栄土地改良区・紫福地区運営委員会、萩市地域おこし協力隊 問合せ：萩市ジオパーク推進課(電話：0838-21-7765)
- 龍が通った道まつり 7月30日(日) 10:00~15:00(小雨決行) 会場：弥富交流促進センター(須佐地域弥富地区)ほか 内容：1面参照 主催：壺ヶ淵交流事業実行委員会 問合せ：萩市弥富公民館(08387-8-2044)  
※ ●の行事に参加したい場合は、事務局 0838-21-7765 へご一報ください。